

国総施第105号
国総建第208号
国総振第114号
平成17年11月7日

社団法人
日本建設機械化協会 会長 殿

国土交通省総合政策局 建設施工企画課長



国土交通省総合政策局 建設業課長



国土交通省総合政策局 建設振興課長



リコールの届け出に伴う建設機械の事故防止について（10月分）

今般、国土交通省に対し、下記のリコールの届出がなされたところであるが、建設作業現場における当該建設機械の使用に際しては、事故防止の観点から貴団体傘下の会員各社に対し周知されたい。

記

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 届出日 | 別紙のとおり |
| 2. 届出者 | 〃 |
| 3. 建設機械名 | 〃 |
| 4. 通称名 | 〃 |
| 5. 型式 | 〃 |
| 6. 不具合の部位 | 〃 |
| 7. 内容 | 〃 |

※国土交通省のホームページに「リコール・改善対策の届け出」があったものを掲載しております。
アドレスは下記のとおりです。

http://www.mlit.go.jp/jidosha/recall/recall105/recall_.html

建設機械に係わるリコール届出一覧 (期間:平成17年10月分)

番号	届出日	届出者	建設機械名	通称名	型式	不具合の部位	リコール対象台数
1	平成17年10月3日	(株)小松製作所	ホイール・クレーン	LW100-1,LT300-2	L004	動力伝達装置 (油圧回路のホース)	775台
2	平成17年10月3日	(株)小松製作所	ホイール・クレーン	LW250-5	L003	動力伝達装置 (油圧回路のホース)	558台
3	平成17年10月3日	(株)小松製作所	グレーダ	GC380F1,GC380F-2	GC380F1,GC380F2,SD-GC001	走行装置 (フロントハブ)	142台
4	平成17年10月12日	小松フォークリフト(株)	ホークリフト	-	M135,M194	走行装置 (前輪ハブ)	2台
5	平成17年10月31日	(株)クボタ	ショベル・ローダ	-	SA-R420D,SA-R520D	フレーム連結部 (センターシャフト)	177台
6	平成17年10月31日	コベルコ建機(株)	ショベル・ローダ	LK40Z,LK50Z	RW03,SA-RW03,RX03,SA-RX03	動力伝達装置 (走行前後進切り替え用電磁弁)	424台

※詳細は別添の「リコール届出一覧表」を参照して下さい。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日:平成 17年 10月 3日

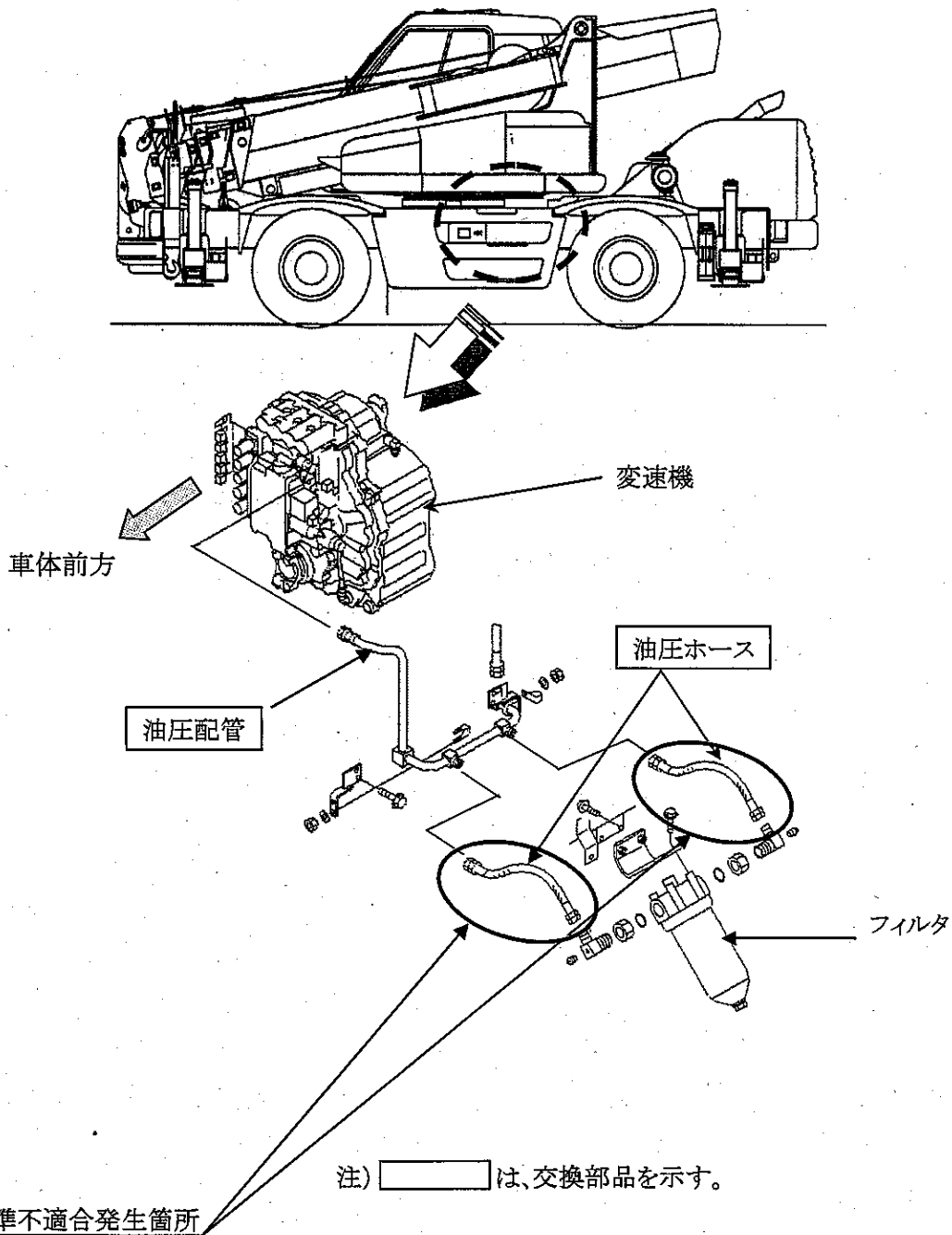
リコール届出番号	1536	リコール開始日	平成 17年 10月 3日
届出者の氏名又は名称	株式会社 小松製作所 代表取締役社長 坂根 正弘		製作者名:株式会社 小松製作所 問い合わせ先:品質保証部 03-5561-2686
不適合の部位(部品名)	動力伝達装置(油圧回路のホース)		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	変速機において、油圧ホースの取り回しが不適切なため、組立時にホースの口金部に過度な力がかかっているものがある。そのため、そのまま使用を続けると、当該ホースに亀裂が入り、最悪の場合、作動油が漏れ、走行不能となるおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、油圧ホース及び油圧配管を対策品と交換する。		
不具合件数	10件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者への周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> ・使用者を全て把握しており、直接電話等で連絡する。 ・自動車分解整備事業者への連絡は、使用者を全て把握しているので周知のための措置は特にとらない。 ・対策完了車には、ステッカ(No.1536))を運転席の後部窓内側左下に貼り付ける。 		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
小松メック	L004	LW100-1	L004-10001~L004-10433 L004-15001~L004-15430 L004-17001 (平成8年1月8日~平成16年6月17日)	707	
		LT300-2	L004-21001~L004-21072 (平成10年7月17日~平成16年6月30日)	68	
	(計1型式)	(計2車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成8年1月8日~平成16年6月30日	(計775台)	

リコール対象車の主要諸元

車名	型式	通称名	種別・用途	車体の形状	原動機の型式 (総排気量(cc))	備 考
小松メック	L004	LW100-1 LT300-2	大型特殊	ホイール・クレーン	小松6D95L (4,890)	

改善箇所説明図



変速機において、油圧ホースの取り回しが不適切なため、組立時にホースの口金部に過度な力がかかっているものがある。そのため、そのまま使用を続けると、当該ホースに亀裂が入り、最悪の場合、作動油が漏れ、走行不能となるおそれがある。

改善措置の内容 : 全車両、油圧ホース及び油圧配管を対策品に交換する。

識別 : 油圧ホース及び油圧配管の口金部に白色ペイントを塗布する。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日:平成 17年 10月 3日

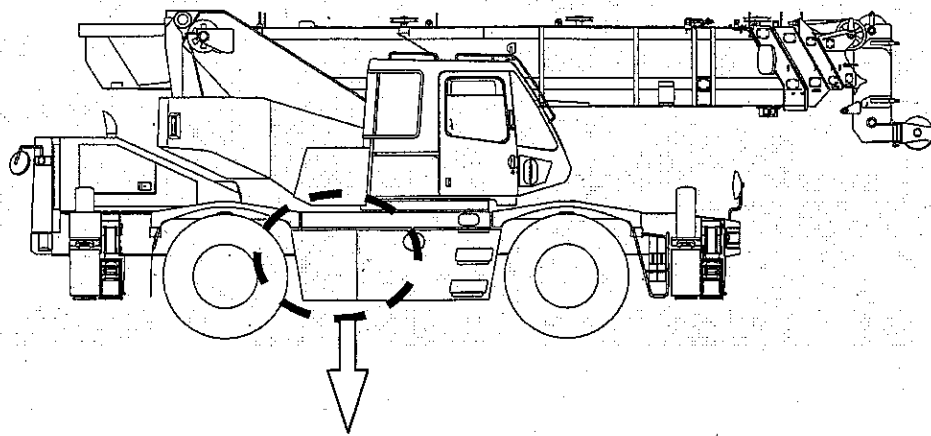
リコール届出番号	1537	リコール開始日	平成 17年 10月 3日
届出者の氏名又は名称	株式会社 小松製作所 代表取締役社長 坂根 正弘	製作者名:株式会社 小松製作所 問い合わせ先:品質保証部 03-5561-2686	
不適合の部位(部品名)	動力伝達装置(油圧回路のホース)		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	変速機において、油圧ホースの取り回しが不適切なため、組立時にホースの口金部に過度な力がかかっているものがある。そのため、そのまま使用を続けると、当該ホースに亀裂が入り、最悪の場合、作動油が漏れ、走行不能となるおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、油圧ホースを対策品と交換し、関連部品も同時に交換する。		
不具合件数	5件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者への周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> ・使用者を全て把握しており、直接電話等で連絡する。 ・自動車分解整備事業者への連絡は、使用者を全て把握しているので周知のための措置は特にとらない。 ・対策完了車には、ステッカ(No.1537)を運転席の後部窓内側左下に貼り付ける。 		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
小松メック	L003	LW250-5	L003-50001~L003-50357 L003-50401~L003-50447 (平成8年2月2日~平成16年2月20日)	404	
			L003-53001~L003-53114 L003-53201~L003-53227 [平成8年6月6日~平成15年5月15日]	141	
			L003-55001~L003-55012 L003-55101 [平成9年2月27日~平成11年11月30日]	13	
	(計1型式)	(計1車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成8年2月2日~平成16年2月20日	(計558台)	

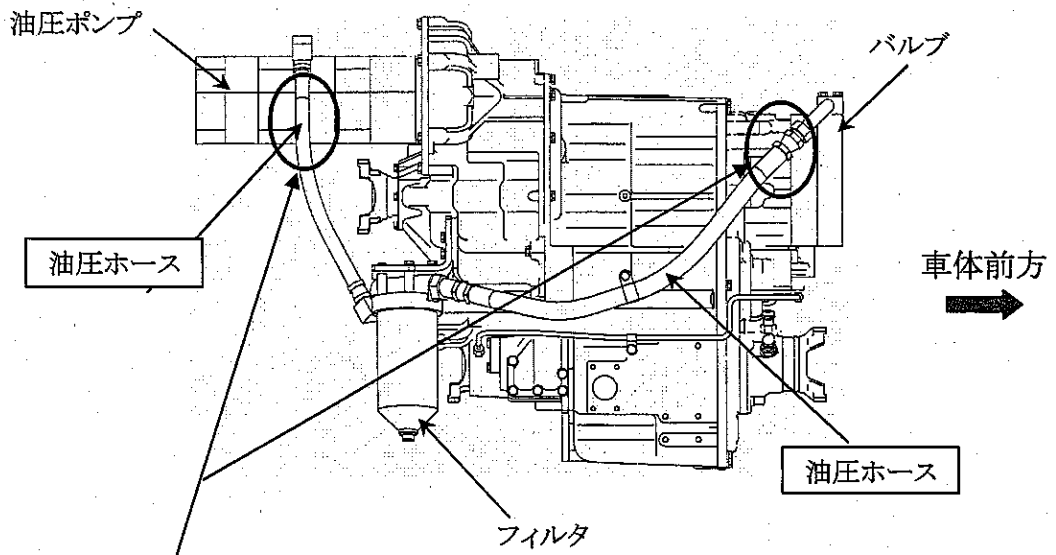
リコール対象車の主要諸元

車名	型式	通称名	種別・用途	車体の形状	原動機の型式 (総排気量(cc))	備 考
小松メック	L003	LW250-5	大型特殊	ホイール・クレーン	小松6D125 (11,044)	

改善箇所説明図



変速機



注) は交換部品を示す。

基準不適合発生箇所

変速機において、油圧ホースの取り回しが不適切なため、組立時にホースの口金部に過度な力がかかっているものがある。そのため、そのまま使用を続けると、当該ホースに亀裂が入り、最悪の場合、作動油が漏れ、走行不能となるおそれがある。

改善措置の内容： 全車両、油圧ホースを対策品と交換し、関連部品も同時に交換する。

識別： 油圧ホース口金部に黄色ペイントを塗布し識別する。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課
 リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線 42-353
 URL:http://www.mlit.go.jp

リコール届出一覧表

リコール届出日:平成 17年 10月 3日

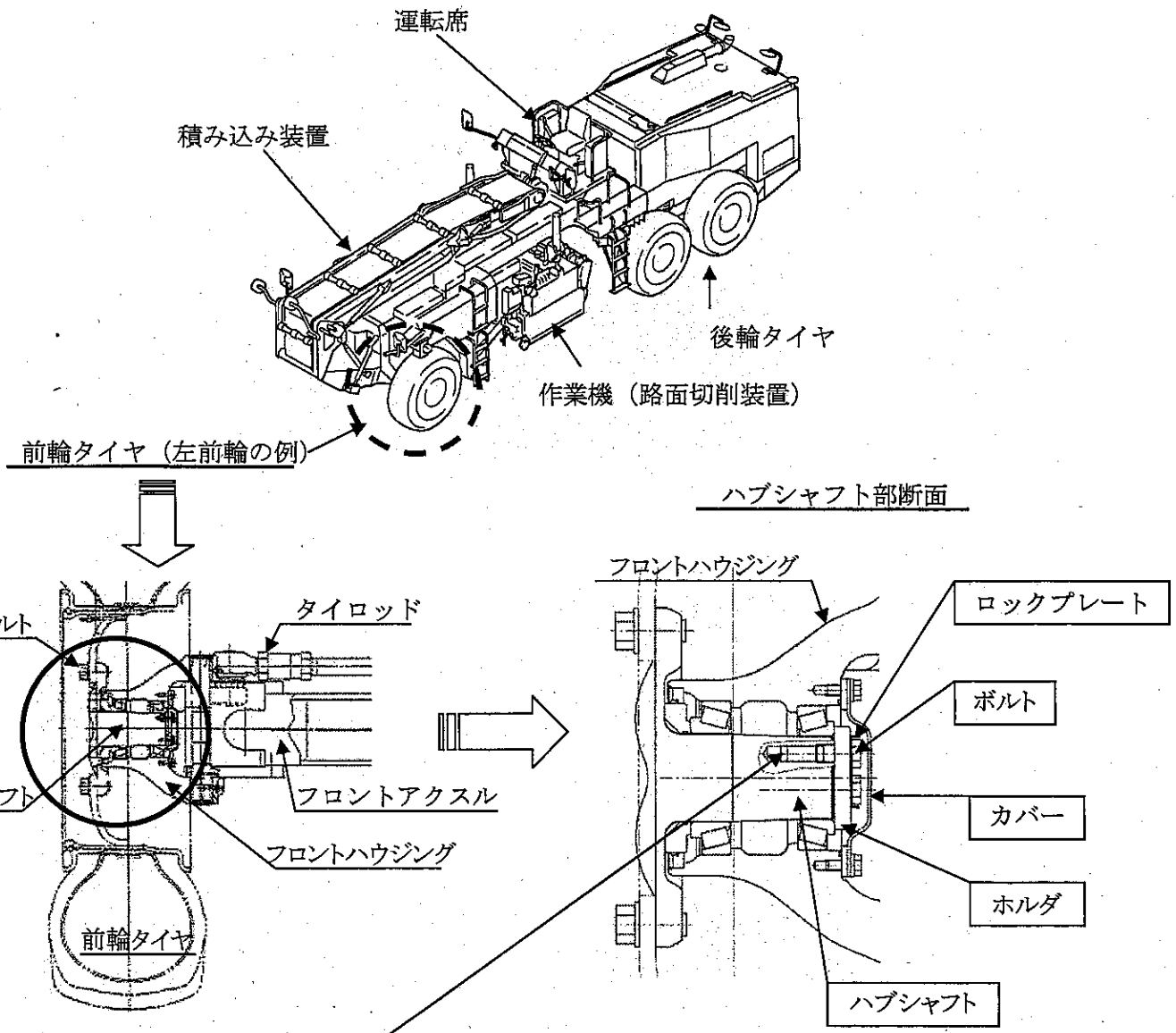
リコール届出番号	1538	リコール開始日	平成 17年 10月 3日
届出者の氏名又は名称	株式会社 小松製作所 代表取締役社長 坂根 正弘		製作者名:株式会社 小松製作所 問い合わせ先:品質保証部 03-5561-2686
不適合の部位(部品名)	走行装置(フロントハブ)		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	フロントハウジングにおいて、ハブシャフトを固定するボルトの強度が不足しているため、ボルトに高い負荷がかかる回転半径が最小となる旋回を繰り返し行なった場合、当該ボルトが緩むものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、ボルトが折損し、タイヤが脱落して走行不能となるおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、ハブシャフトを固定するための部品一式を対策品と交換する。		
不具合件数	2件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者に周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> ・使用者を全て把握しており、直接電話等で連絡する。 ・自動車分解整備事業者への連絡は、使用者を全て把握しているので特に周知のための措置はとらない。 ・対策完了車には、ステッカ(No.1538)を運転台ガード内側左上に貼り付ける。 		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
小松	GC380F1	GC380F-1	GC380F1-10003~GC380F-10025 GC380F1-11001~GC380F-11026 (昭和 63年 9月 29日~平成 7年 9月 27日)	49	
	GC380F2	GC380F-2	GC380F2-12002~GC380F2-12088 (平成 7年 3月 22日~平成 16年 3月 31日)	87	
コマツ	SD-GC001	GC380F-2	KMTGC001E260113001 ~KMTGC001E260113006 (平成 16年 4月 22日~平成 17年 8月 10日)	6	
	(計 3 型式)	(計 2 車種)	(製作期間の全体の範囲) (昭和 63年 9月 29日~平成 17年 8月 10日)	(計 142 台)	

リコール対象車の主要諸元

車名	型式	通称名	種別・用途	車体の形状	原動機の型式 (総排気量 (cc))	備考
小松	GC380F1	GC380F-1	大型特殊 建設機械	グレーダ	6D140 (15,239)	
	GC380F2	GC380F-2	大型特殊 建設機械	グレーダ	6D140 (15,239)	
コマツ	SD-GC001	GC380F-2	大型特殊 建設機械	グレーダ	6D140 (15,239)	

改善箇所説明図 (型式 SD-GC001 の例)



備考) は交換部品を示す。

基準不適合箇所

フロントハウジングにおいて、ハブシャフトを固定するボルトの強度が不足しているため、ボルトに高い負荷がかかる回転半径が最小となる旋回を繰り返し行なった場合、当該ボルトが緩むものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、ボルトが折損し、タイヤが脱落して走行不能となるおそれがある。

改善処置の内容: 全車両、ハブシャフトを固定するための部品一式を対策品と交換する。

(ハブシャフトを固定するための部品一式: ボルト、ハブシャフト、ホルダ、ロックプレート及びカバー)

識別: カバー表面の中心部に白色ペイントを塗布する。

連絡先	:自動車交通局技術安全部審査課リコール対策室
TEL	:03-5253-8111 内線42353
アドレス	:http://www.mlit.go.jp

改善対策届出一覧表

改善対策届出日：平成17年10月12日

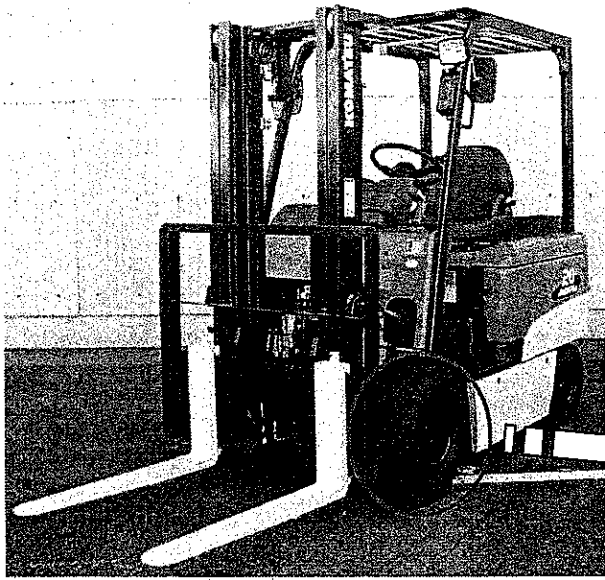
改善対策届出番号	299	改善対策開始日	平成17年10月13日
届出者の氏名又は名称	小松フォークリフト株式会社 代表取締役社長 渋谷 武男		問合せ先:品質保証本部 品質保証部 TEL :0285-28-8750
不具合の部位(部品名)	車軸装置(前輪ハブ)		
不具合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	ダブルタイヤ仕様において、前輪ハブの強度が不足しているため、高負荷による荷役作業を頻繁に行うと、タイヤ取付け部近傍の角部に亀裂が発生することがある。そのため、そのまま使用を続けると、亀裂が進行して、最悪の場合、当該ハブが破損して走行できなくなるおそれがある。		
改善対策の内容	全車両、前輪ハブを対策品と交換する。		
不具合の件数	0件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。(構内作業車)		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者 に周知させるための措置	使用者:直接訪問して通知する。 自動車分解整備事業者:全使用者を把握しているため、周知のための措置は取らない。 改修実施車は、その旨を定期点検記録簿に記載する。		

車名	型式	通称名	改善対策対象車の車台番号 (シリアル番号)の範囲及び 製作期間	改善対策対象車の 台数	備 考
小松	M135	—	M135-84172 (平成10年7月23日)	1台	
小松	M194	—	M194-813292 (平成14年8月31日)	1台	
	(計2型式)	—	(製作期間の全体の範囲) (平成10年7月23日～平成14年8月31日)	(計2台)	

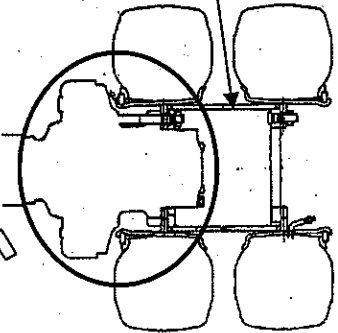
改善対策対象車の主要諸元

車名	型式	通称名	種別・用途	車体の形状	原動機の型式 (最大出力 (KW))	備考
小松	M135	—	大型特殊	ホークリフト	明電舎 2GH (7.4KW)	
小松	M194	—	大型特殊	ホークリフト	明電舎 KM2 (10.3KW)	

改善箇所説明図



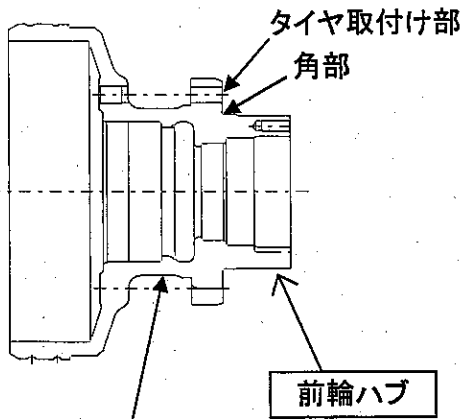
ダブルタイヤ用スペーサ



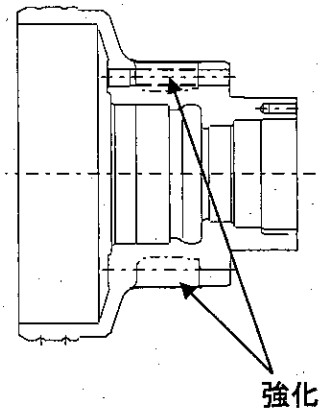
車体外側

前輪ダブルタイヤ構造

(対策前)



(対策後)



ダブルタイヤ仕様において、前輪ハブの強度が不足しているため、高負荷による荷役作業を頻繁に行うと、タイヤ取付け部近傍の角部に亀裂が発生することがある。そのため、そのまま使用を続けると、亀裂が進行して、最悪の場合、当該ハブが破損して走行できなくなるおそれがある。

改善の内容

全車両、前輪ハブを対策品と交換する。

注: は交換部品を示す。

識別: ダッシュボード前部に取付けてある社銘板の上方に、黄色ペイントを塗布する。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課リコール対策室
 TEL:03-5253-8111 内線42353
 アドレス:http://www.mlit.go.jp

改善対策届出一覧表

改善対策届出日:平成17年10月31日

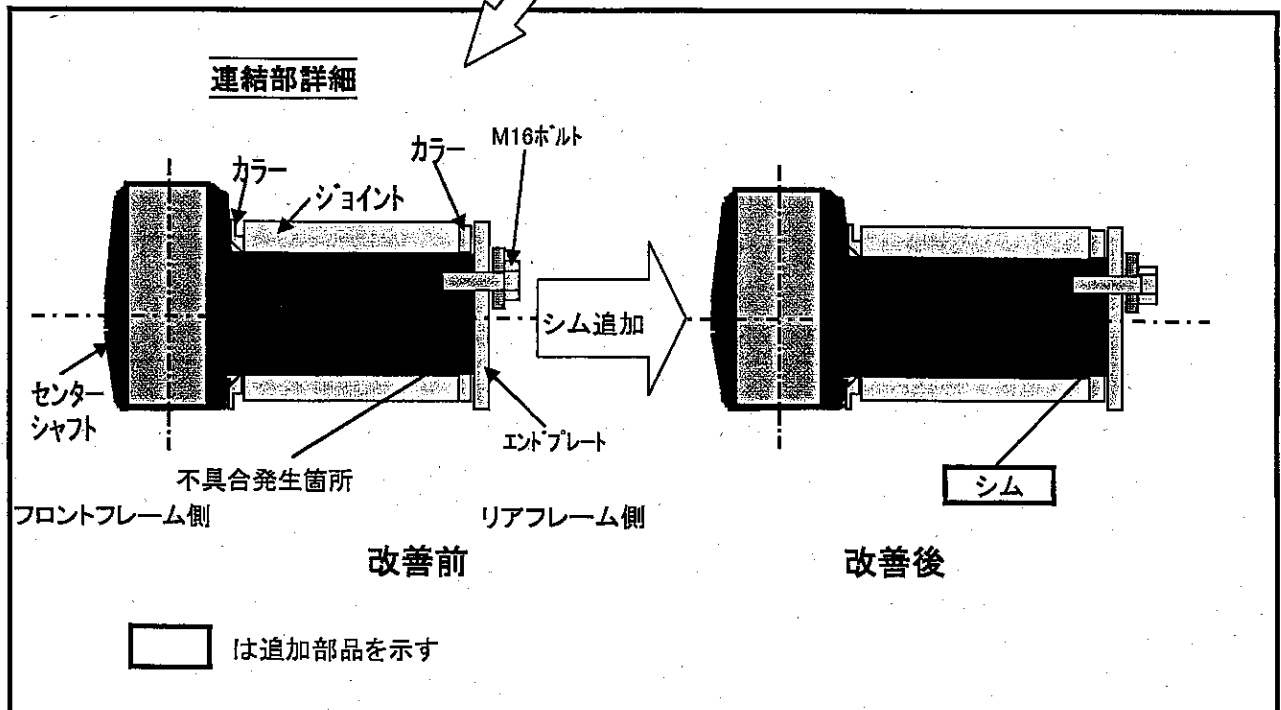
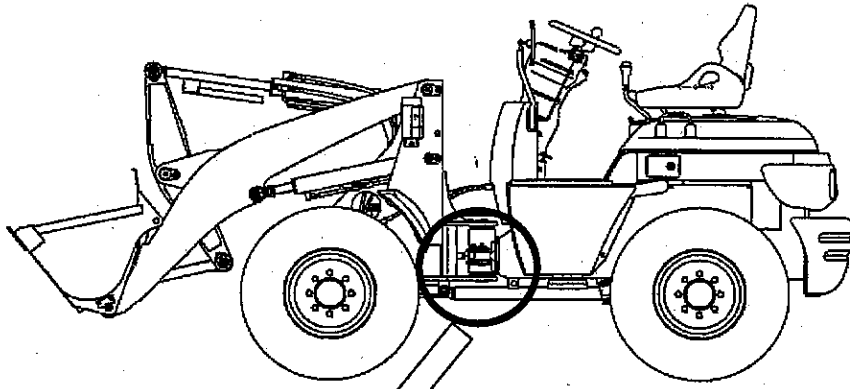
改善対策届出番号	303	改善対策開始日	平成17年11月1日
届出者の氏名又は名称	株式会社 クボタ 代表取締役 社長 幡掛大輔	問い合わせ先: 機械事業本部 品質保証部 TEL:072-241-1125	
不具合の部位(部品名)	フレーム連結部 (センターシャフト)		
不具合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	揺動用センターシャフトの加工が不適切なため、シャフトを固定するエンドプレートとシャフトの間に隙間が生じたものがある。そのため、そのまま使用を続けると、締め付けボルトが緩み、最悪の場合、ボルトとエンドプレートが脱落するおそれがある。		
改善対策の内容	センターシャフトとエンドプレートの上にシムを追加し、締め付けボルトが緩まないようにする。なお、既にボルトに緩みが発生している場合は、ボルトを新品と交換する。		
不具合件数	国内: 6件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備事業者へ周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> ・使用者:使用者を把握しているため、直接訪問して通知する。 ・自動車分解整備事業者:全使用者を把握しているため周知の措置は取らない。 ・改善実施済車はその旨を保証修理記録に記載する。 		

車名	型式	通称名	改善対策対象車の車台番号(シリアル番号)の範囲及び製作期間	改善対策対象車の台数	備考
クボタ	SA-R420D	—	R420D-10226~R420D-10468 平成16年9月9日~平成17年5月25日	119	
	SA-R520D	—	R520D-10156~R520D-10252 平成16年9月20日~平成17年5月25日	58	
	(計2型式)	(計2車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成16年9月9日~平成17年5月25日	(計 177台)	

改善対策対象車の主要諸元

車名	型式	通称名	種別・用途	車体の形状	原動機の型式 (総排気量(L))	備考
クボタ	SA-R420D	—	小型特殊自動車 建設機械	シヨベル・ローダ	D1503 (1.499 L)	
	SA-R520D	—			D1503-T (1.499 L)	

改善箇所説明図



不具合発生箇所

揺動用センターシャフトの加工が不適切なため、シャフトを固定するエンドプレートとシャフトの間に隙間が生じたものがある。そのため、そのまま使用を続けると、締め付けボルトが緩み、最悪の場合、ボルトとエンドプレートが脱落するおそれがある。

改善の内容

センターシャフトとエンドプレートの上にシムを追加し、締め付けボルトが緩まないようにする。なお、既にボルトに緩みが発生している場合は、ボルトを新品と交換する。

改善後の識別

エンドプレートに白ペンキを塗布する。

連絡先:自動車交通局技術安全部審査課リコール対策室

TEL: 03-5253-8111(内線 42-353)

アドレス: <http://www.mlit.go.jp>

リコール届出一覧表

リコール届出日:平成17年10月31日

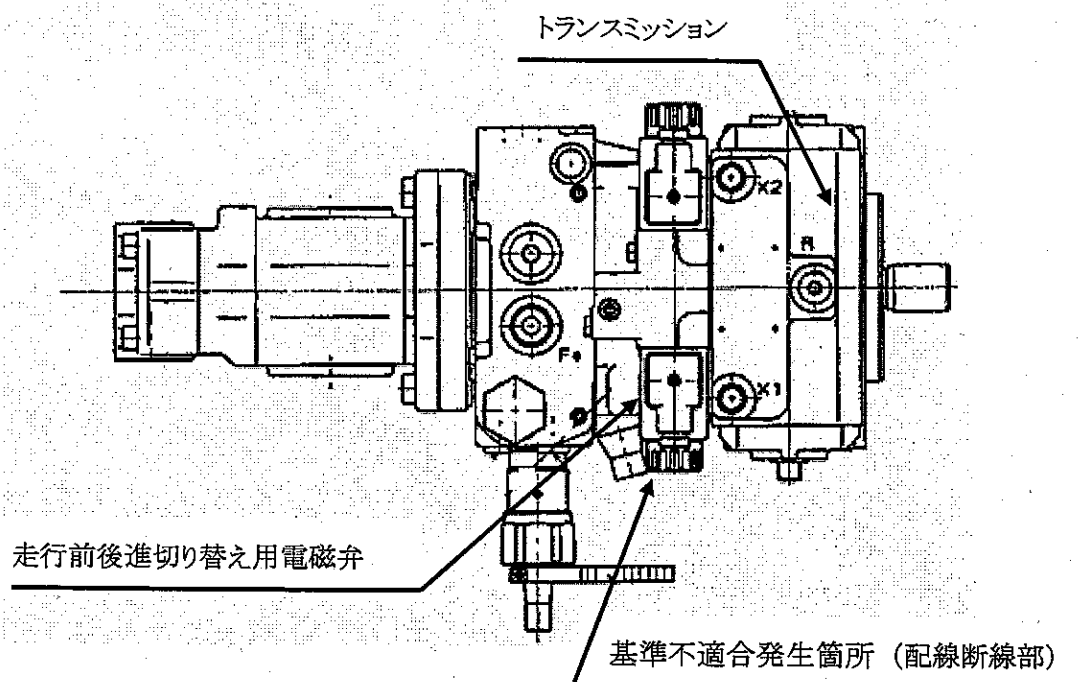
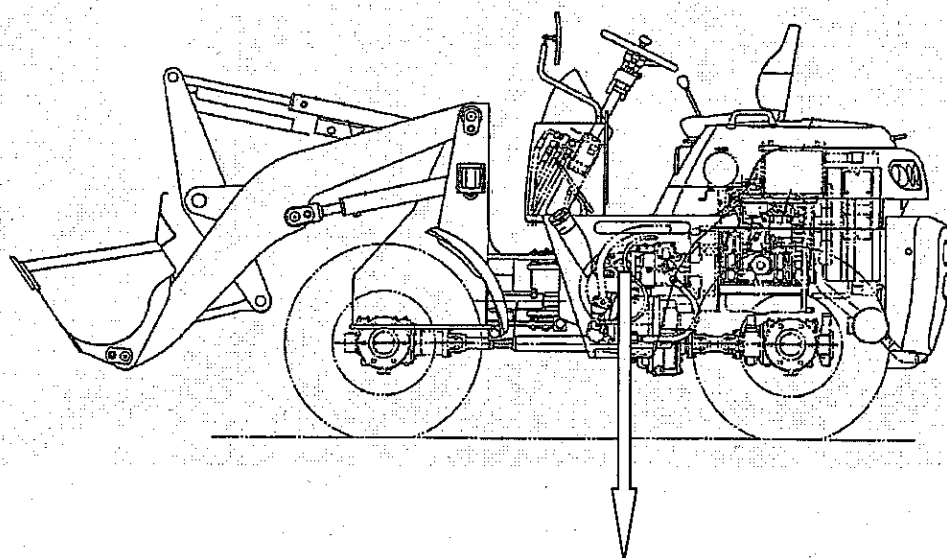
リコール届出番号	1551	リコール開始日	平成17年11月1日
届出者の氏名又は名称	コベルコ建機株式会社 製作者:コベルコ建機株式会社 代表取締役社長 島田 博夫 問合せ先:開発生産本部 広島工場品質保証室 TEL 082-874-7277		
不具合の部位 (部品名称)	動力伝達装置(走行前後進切り替え用電磁弁)		
基準不適合状態にあると認める構造、装置又は性能の状況及びその原因	動力伝達装置において、前後進切り替え用電磁弁の配線固定が不適切なため、トランスミッションの振動により配線が共振し断線するものがある。そのため、電磁弁の前後進切り替えができなくなり、最悪の場合、走行不能となるおそれがある。		
改善措置の内容	全車両、走行前後進切り替え用電磁弁の配線を対策品と交換する。		
不具合件数	13件	事故の有無	無し
発見の動機	市場からの情報による。		
自動車使用者及び自動車分解整備業者に周知させるための措置	<ul style="list-style-type: none"> ・使用者:使用者を全て把握しているので、直接訪問して通知し対応する。 ・自動車分解整備業者:使用者を全て把握しているので周知のための措置は採らない。 ・対策完了車両にはステッカーNo.1551を運転座席下の原動機ボンネット前面に貼り付ける。 		

車名	型式	通称名	リコール対象車の車台番号(シリアル番号)の範囲及び製作期間	リコール対象車の台数	備考
コベルコ	RW03	LK40Z	RW03-01001~RW03-01117 平成14年12月13日~平成16年5月31日	90台	
	SA-RW03		RW03-01118~RW03-01298 平成16年7月3日~平成17年7月20日	181台	
	RX03	LK50Z	RX03-01001~RX03-01104 平成14年12月13日~平成16年5月31日	88台	
	SA-RX03		RX03-01105~RX03-01169 平成16年10月18日~平成17年7月22日	65台	
	(計4型式)	(計2車種)	(製作期間の全体の範囲) 平成14年12月13日~平成17年7月22日	(計424台)	

リコール対象車の主要諸元

車名	型式	通称名	種別・用途	車体の形状	原動機の型式 (総排気量(CC))	備考
コベルコ	RW03	LK40Z	小型特殊・建設 機械	ショベル・ローダ	ヤマハ-3TNV84 (1,496)	
	SA-RW03					
	RX03	LK50Z				
	SA-RX03					

改善箇所説明図



動力伝達装置において、前後進切り替え用電磁弁の配線固定が不適切なため、トランスミッションの振動により配線が共振し断線するものがある。そのため、電磁弁の前後進切り替えができなくなり、最悪の場合、走行不能となるおそれがある。

改善措置の内容

全車両、走行前後進切り替え用電磁弁の配線を対策品と交換する。

識別： 走行前後進切り替え用電磁弁に白色ペイントを塗布する。